

## 経理・財務スキル検定プログラム 開発プロジェクト完成!

経済産業省が策定した「経理・財務サービスマスター・スキルスタンダード」の普及促進事業として注目されている「経理・財務スキル検定プログラム開発プロジェクト」の実証実験が二〇〇五年五月に終了した。米国流試験開発手法であるインストラクシヨンドesignの考え方に基づいて試験問題を開発し、実証実験によるデータの統計分析を行うことにより、経理・財務実務能力を客観的に測定する検定手法を日本で初めて完成させた。

実証実験の結果を受けて、今年中に日本CFO協会は以下の四点を特徴とする新しい「経理・財務スキル検定」をスタートさせる。経理・財務の重要性が増している状況下にあつて「ほとんどの上場企業が導入するだろう」(金児昭氏・信越化学工業顧問)という声もあるこの検定は、教育効果の検証、中途採用や派遣職員の選考のベースになるものとして多方面から注目されている。

### 特徴

経理・財務の実務プロセスを体系的に可視化した「経理・財務サービスマスター・スキルスタンダード」に完全準拠。

インストラクシヨンドesign手法による客観的な実務スキルを測定する試験問題。

六〇社一、〇〇〇人が参加した実証実験データの分析に裏付けられた実用的な試験結果のフィードバック。

何回受験しても同じ能力であれば同じ結果となる客観的試験のため、受験者の時系列的な成長管理ができるキャリア開発型の試験制度。



サンプル問題  
サンプル問題は協会ホームページ  
(www.cfo.jp)に掲載しています。

## CFO Exchange 2005

五月一八日(水)に、「経理・財務スキル検定プログラム開発プロジェクト」の完成記念として東京全日空ホテルにて春のレセプション・パーティー「CFO Exchange 2005」が開かれた。会員の方々はじめプロジェクトに参画した委員のメンバーや実証実験への参加者など約200名の方々が参加した。「経理・財務サービスマスター・スキルスタンダード」の開発当初よりプロジェクトを支えてこられた信越化学工業顧問の金児昭氏のご挨拶に続き、日本公認会計士協会会長の藤沼亜起氏の乾杯のご発声でパーティーが幕を開けた。元三井物産CFOで現日本銀行政策委員会審議委員の福岡年勝氏をはじめ経営財務分野の第一人者が顔を揃え、閉会まで参加者のメンバーの懇談が続けられた。



## 第5回 CFOラウンドテーブル 2005

日時：二〇〇五年四月七日  
場所：パレスホテル(東京・丸の内)  
主催：日本CFO協会

第5回は今年一月に実施した「財務マネジメント・サーベイ」の調査をもとに、「格付け」をテーマに取り上げた。コーポレートディレクションパートナーの松田千恵子氏を講師にお迎えし、主任研究委員の大田研一氏(山口大学大学院教授)が進行役を務めた。証券監督者国際機構、国際財務協会連盟など、格付け会社のあり方を見直す動きが国際的に盛んになつてきているなかで、日本のCFOメンバーの質問や問題意識が積極的に発言された。最適資本構成と格付けとのバランスや、M&Aなど再投資の際の苦労など、各社から財務戦



### 講演要旨

## 格付けはどうあるべきか

松田千恵子氏  
コーポレートディレクション パートナー

**格付け会社に対する国際世論**  
国際的大企業の破綻や不祥事を機に格付けそのものへの信頼性が大きく揺らいだが、資本市場に占める役割、影響力は非常に大きい。チェック・アンド・バランスを働かせないとモラルハザードが起きやすい。規制や監督が必要という国際的世論が生じている。

ただ、かなりの経験に裏打ちされたレベルの高さが要求される格付けに対してあまり信用リスク評価をやったことのない監督官庁などが規制をかけることには弊害もある。マクロのデフォルトリスクを計量化するのはとは違い、ミクロの信用リスクは一社一社についての評価を下さざるを得ない。職人芸になってくる。規制が強まることにより、その評価能力に悪影響を及ぼさないようにしないといけない。一番大きな弊害は、格付け業界が全世界的に非常に独占

に近い寡占状況にあること。また、日本の場合は社債市場が非常に薄く、社債市場の側からのチェック・アンド・バランスも働きにくい。格付けの広がり  
投資家にとっては信用リスクのアナリストをそれぞれ自社に抱えるなど、格付けへの依存度は確実に低下しているが、銀行ではクレジットスコアリングに外部の格付けのデータを取り入れるなど格付けをより重視している傾向も強い。

一方で、発行体はもっと進んだ使い方を始めている。最適な負債資本構成の検討の際のデータとした



り、株式サイドの評価と併せて自社の指標として活用するなど戦略的な使い方も出てきている。

**企業財務と格付け**  
企業のCFOの頭を悩ませているのは再投資問題。現金を持っていて株主資本比率が良ければ、株主からは還元を求められるが、格付け上はよいだろうとする考え方が少なくない。しかし、格付け会社にとつても余剰現金をどこに再投資するのかわからないのは注目すべき点だ。財務諸表の数字がどうなると格付けが上がるというふうなものではなく、やはり事業の将来像が描かれていることが大切。負債資本構成との関係では、日本の特殊性も考えなければならぬ。日本の特殊な事実。銀行からの借入は非常に低利の疑似資本だったので、WACCの理論をそのまま当てはめても、まだ実態に合わないことも確かである。

略上の問題点が披露されたほか、格付け会社のアナリストの質の問題や格付け会社の利益相反の問題についてどう対処していくべきかといった厳しい発言も相次いだ。



大田 研一氏 山口大学大学院 教授

## CFO ROUNDTABLE

### CFO ROUNDTABLE

CFO ROUNDTABLEとは  
日本を代表する企業の現役CFOが集まり、CFOが直面する重要な経営課題に関し相互に意見交換を行い、議論を深め、情報発信をしていくネットワークです。

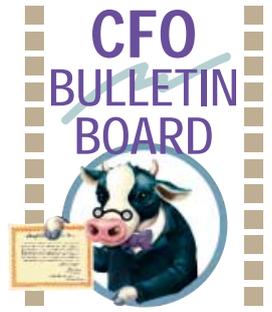
#### メンバー

青木 哲	本田技研工業 専務取締役
秋山 豪	鹿島建設 専務取締役
伊藤 一郎	旭化成 取締役兼専務執行役員
小倉 正道	富士通 取締役専務CFO
葛馬 正男	東レ 専務取締役
川上 徹也	松下電器産業 代表取締役専務CFO
近藤 祐	三井物産 代表取締役副社長執行役員CFO
齋藤 篤	清水建設 取締役専務執行役員
佐々木 信行	セコム 取締役専務執行役員
佐藤 明	日産自動車 VP財務部
新貝 康司	日本たばこ産業 執行役員財務責任者
高野 直人	帝人 常務取締役CFO
高原 宏	武田薬品工業 コーポレート・オフィサー・経理部長
長井 進	カゴメ 執行役員財務部長
畑 隆司	トヨタ自動車 常務役員
平田 正之	エヌ・ティ・ティ・ドコモ 代表取締役副社長
藤田 純孝	伊藤忠商事 代表取締役副社長CFO
古瀬 洋一郎	三洋電機 代表取締役副社長兼CFO
星野 敏雄	花王 代表取締役兼専務執行役員
松澤 隆	旭硝子 代表取締役副社長執行役員CFO
的井 保夫	日本電気 取締役常務
丸田 秀実	西濃運輸 取締役
水野 一郎	三菱商事 代表取締役常務執行役員CFO
八木 和則	横河電機 取締役専務執行役員
山下 昭典	イオン 執行役員連企業本部長
吉田 晴彦	富士ゼロックス 専務執行役員

#### 世話人・顧問

荒木 隆司	トヨタ自動車 代表取締役副社長
泉谷 裕	村田製作所 常任顧問
伊藤 進一郎	住友電気工業 顧問
関 哲夫	新日本製鐵 常任監査役
金児 昭	信越化学工業 顧問

(2005年5月31日現在、五十音順)



”AFPグローバルレポート・  
トレジャリース・フォーラム  
”  
開催

国際金融の有識者、  
米国財務のトップが集結！

(二〇〇五年五月二日、二百サンフランシスコ)

米国最大の財務団体AFP(財務プロフェッショナル協会)が、これまでの米国のトレジャラー(財務部長)を対象とした活動の幅を広げ、世界の財務エグゼクティブを対象とした情報発信を始めた。日本CFO協会理事長の行天豊雄のほか、FRB副議長のロジャー・ファীগソン氏を含む四名の講演者が、世界的な国際金融の有識者三〇名で構成される「グループ・オブ・サートイ」のメンバーということもあって、米国の財務エグゼクティブの関心の高さは開催前から話題を呼んでいた。一部の破綻も噂されるヘッジファンドの動きも含め、欧州、中国とインド、さらには南米でのビジネスなどの多数のセッションのほか、ケーススタディーや討論会を含めた二日間の贅沢なフォーラムがサンフランシスコ

で開催された。財務の中堅スタッフを中心として二五年の活動を続けてきたAFPが、CFOクラスを対象にグローバルな視点での情報提供を開始したのは、「AFPの会員もシニアレベルへの移行が進んでおり、CFOクラスを含めたエグゼクティブを対象にその活動領域を広げている」(ジム・ケイツ氏AFP代表)だけではなく、大多数の米国企業の財務環境もグローバル化によって従来からの米国流だけではマネジメントしていけなくなってきたことが背景にある。CFOクラスのエグゼクティブにのみ厳しく参加者が絞られるこのフォーラムは、来年ニューヨークで開催される。

(注)日本CFO協会理事行天豊雄の講演内容(英文)は、協会ホームページ(www.cfo.jp)でご覧いただけます。



# あなたの会社の財務担当者は 無免許じゃありませんか？

財務パーソンの将来のキャリア・アップをサポートします。最先端のスキルや知識を身につけたい方は、是非ご入会ください。

**最新情報の提供**

- CFOセミナー 無料参加(毎月2回開催)
- CFOフォーラム・ジャパン(優待割引)(毎年1回)
- 研究会無料参加(適宜開催)

**教育 / キャリアサポート**

- CFO資格認定(分野、段階別の4資格)
- 財務教育・研修(基礎教育から役員研修まで)

**ベンチマーキング**

- 財務マネジメント・サーベイ
- (CFOの各種調査結果をフィードバック)

**交流会 / 国際交流**

- 海外財務フォーラムへの優待割引



CFO®は日本CFO協会の登録商標です。

- 設立: 2000年10月12日
- 理事長: 行天豊雄
- 活動: セミナー、フォーラム、資格認定、各種サーベイ、研究会、交流会、海外諸団体との交流
- 会費: [個人会員]  
入会金 / 10,500円 年会費 / 12,600円  
[法人会員]  
入会金 / 210,000円 年会費 / 210,000円  
(企業の財務部門のパフォーマンス向上をサポート)
- 資格: 協会が主催する各種資格試験に合格した個人会員に対して、各種のCFO資格の認定を行っています。

国際的提携団体: IGT(A 国際財務協会連盟) IAFEX(国際財務幹部協会連盟) AFR(米国財務プロフェッショナル協会) CACFCQ(中国CFO協会) KCFCQ(韓国CFO協会)

問い合わせ先: [E-mail] info@cfo.jp  
[TEL] 03-3556-2334

経営・財務(コーポレート・ファイナンス)の国際資格認定機関

日本CFO協会  
www.cfo.jp

